

## 年間研修計画の工夫

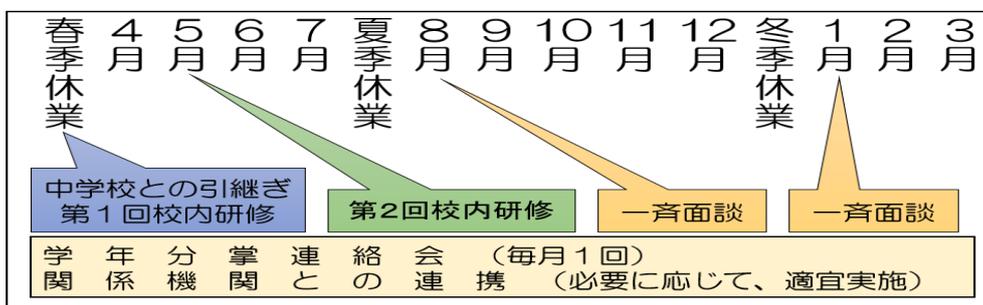
### 高等学校

日常の「語り合い」から、生徒を理解するよう努めていく取組

#### ○ 実践の概要

教職員間、関係機関との「語り合い」の場を複数回設定し、生徒理解を深めることで、学校として一貫した関わりとなるよう実践を行っています。

- 中学校との引継ぎ（春季休業期間）  
特別支援教育コーディネーターや学級担任が、新1年生の出身中学校を訪問し、「個別の教育支援計画」等の資料を引き継いでいます。
- 「第1回校内研修」（春季休業期間）  
全校生徒一人一人の様子を全職員で共有する機会を設け、中学校からの引継ぎの内容を共通理解しながらも、先入観にとらわれないようにして、生徒と新たな関係を築く大切さを確認しています。
- 「第2回校内研修」（大型連休前後）  
大型連休前後は、生徒が心理的に不安定になる傾向があることから、第1学年の生徒の様子について全職員で「語り合い」を実施し、新たな一面が見られたことなどを共有しています。
- 「学年分掌連絡会」（毎月1回）  
全職員で「語り合い」を実施し、生徒の様々な面について情報共有するとともに、特に課題のある生徒については、指導の方向性を合意し、全教職員が一貫した関わりを目指しています。
- 「一斉面談」（長期休業後）  
長期休業明けは、生徒が心理的に不安定になる傾向があることから、自由な雰囲気を作りながら全ての生徒が教員1名と面談を実施し「語り合い」を行っています。
- 関係機関との連携（必要に応じて適宜実施）  
大学教員や社会福祉士を講師に校内研修を実施したり、生徒に生活上や健康上などでの支援が必要になった場合に支援の方策について助言をもらったりするなど、関係機関との連携を行っています。



【生徒理解に向けた一年間の取組】

#### ○ 実践の成果

生徒の実態について、外部の方に相談し、話を伺うことで、教職員の生徒理解につながりました。また、病院、社会福祉法人、児童相談所、役場等の関係機関の職員とつながることで、「包括的」な生徒支援となり、生徒の成長につながりました。